

第 13 期自然環境部会 10 月定例会議報告

2025 年 10 月 18 日（土）13:30～16:10

M サポ会議室 Zoom 併用開催

出席者 （会場 10 名、Zoom2 名）

会場 酒井千富（前橋市）、青木裕一（伊勢崎市）、高橋陽子（伊勢崎市）、櫻田稔（安中市）、原田邦昭（高崎市）、田中和夫（高崎市）、井上金治（前橋市）、富岡賢洋（前橋市）、六本木真弓（前橋市）、国安俊夫（前橋市）

ZOOM 上田優希（前橋市）、

群馬県 原田林太郎（自然環境課自然環境係長）

学習会 「外来種問題について」 講師：原田県自然環境課自然環境係長

概要（AI 作成に加筆修正） 群馬県自然環境課の原田が自己紹介を行った。原田氏は外来生物の定義、影響、法的対応、群馬県の対策について詳細に説明し、特定の外来生物の規制と被害報告システムの拡大について報告した。質疑応答では地域イベントや教育活動の資金調達、クビアカツヤカミキリ対策の具体的手法、外来種対策の優先順位等について議論された。

（別紙参照） 配布資料（使用したスライドの内容）国安が保管 希望者に配布可

定例会

（1）活動報告 8 月定例会以降の活動情報交換

- ・高山村森林整備活動 9、10 月実施 11 月が最後
- ・8/20 ライングループ「クビアカバスターズ」立ち上げ 12 人登録
- ・8/28 県ネイチャーポジティブ推進会議 富所・常見・櫻田の 3 名登録
- ・9/18 ネイチャーポジティブ先進事例セミナー 約 40 名 次回 11 月みなかみ町で開催
- ・9/27～28 自然観察指導員講習会 定員を超す 65 名が受講
- ・9/27 緑の都市づくりを考える講演会
- ・10/5 ヤマビル特別研修会 47 名参加（当日配布資料配布）
- ・10/17 部会所属部員名簿の入手 195 名（10 月 17 日現在）

（2）今後の活動計画について

①11/1 環境フォーラム、11/15 環境フェスティバル対応

部会活動紹介ポスターを作成 11/1 締切

参加賞 必要な個数集まった

②今後の活動計画提案

11/12・13 環境省の推進法の報告会

ネイチャーポジティブ勉強会の提案 講師：松井会員、水口学長、群馬県

③次回例会開催日程

1 月 10 日（土）13:30～ M サポ会議室

<別紙>

学習会概要 Zoom の AI 要約を基に加筆修正

群馬県自然環境課の原田が自己紹介を行い、自然環境係長として生物多様性や外来種の問題を担当していることを説明した。スライド資料を基に外来種問題について主要テーマに沿って説明が行われた。

<外来種問題の主要テーマ>

まず外来生物の定義を説明し、人間の活動により他地域から移入された生物を外来種と定義すると述べました。次に外来生物が生態系、人の生命・身体、農林水産業に与える影響について詳しく説明し、競合、遺伝的混乱、被害などを例示しました。外来生物法について説明し、特定外来生物の規制、現在 162 種が特定外来生物に指定されていることを共有しました。最後に外来生物法の改正と役割分担について説明し、国が総合的な対策と水際対策を担当し、都道府県が地域全体の防止対策を担当することを明確にしました。

引き続き、県内の外来生物の状況について詳しく説明しました。県では昨年 12 月に被害防止外来種リスト（対策優占種を含む 104 種の動物と 108 種の植物）を公表、特にクビアカツヤカミキリに対して強い対応を取っていること、ぐんまクビアカネットでは、昨年 400 件から今年 600 件を超える報告数増加を報告しました。

<質疑応答・意見交換>

外来生物の規制について、法的には規制があるものの実際の適用は困難であると指摘しました。地域イベントや教育活動における資金調達の可能性について、市町村レベルでの協力や認定システムの構築を提案した。また、クビアカの薬害対策の具体的な手法、特に薬剤を含むトラップや幼虫への薬剤投与方法について議論され、県側からは正式な認定や補助金適用が困難であることが明らかになった。現在の外来種対策の優先順位についても議論され、被害拡大の防止と現状維持のバランスが重要な課題として確認された。